

技術・家庭科部会 研究の構想（案）

平成 23 年度～

I 研究主題

生活を工夫・創造し、社会でよりよく生きる力を育てる指導過程はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

平成12年度より、「生活に生きてはたらく力を育てる学習過程はどうあればよいか」の主題の下、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習の一層の充実を図り、授業を通して身に付けた力が実生活で生きる力となるよう研究を推進してきた。その結果、各項目の基礎的・基本的な知識及び技術を明確にすることや学習内容の系統的な関連を図り、生徒の実態や発達の段階等を十分考慮した指導計画を作成することで、具体的な学習過程の工夫がなされ、授業を通して身に付けた力が、より生活に生きてはたらく力になった。

平成20年度に示された学習指導要領では、教科の目標は従来と同様であり、基本的な考え方は変わっていないが、これからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに、社会の変化に主体的に対応する能力を育てる観点から、分野の目標について改善が図られた。技術分野では「技術を適切に評価し活用できる能力と態度の育成」、家庭分野では「これからの生活を展望し、課題をもって主体的によりよい生活を工夫できる能力と態度の育成」を重視している。ものづくりを支える能力等を一層高めることや自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、これからの生活を見通し、よりよい生活を送るための能力を育成すること等、本教科のねらいの確実な定着を図るために技術分野、家庭分野ともに2つの内容が4つの内容に再構成され、その4つの内容を全ての生徒に履修させることとなった。

そこで、これまでの研究を継承しつつ、今までのねらいである、実際の生活の中で生かすことができる能力と態度を育てることを基礎とし、将来にわたって変化し続ける社会に主体的に対応できる人間の育成を目指していきたい。そのためには、生活を営む上で生じる課題に対して、自分なりの判断をして課題を解決することができる能力、すなわち問題解決能力をより高めていきたい。また、これからの生活を見通し、よりよい生活を工夫・創造する能力と社会でよりよく生きる実践的な態度を育てたい。

そのために、各項目や各項目に示す事項について、相互に有機的な関連を図り、育てたい能力と指導の時期を明確にした指導計画を作成することや、生徒の主体的な学習活動や個性を生かすことができる題材を設定し、具体的な指導過程を工夫するなどの意図的・計画的な授業設計を研究していくことが重要と考える。

研究主題の設定に当たって、社会の変化に主体的に対応できる生徒の育成を目指して、「生活を工夫・創造し、社会でよりよく生きる力を育てる指導過程はどうあればよいか」とし、学習指導要領の趣旨に沿った指導過程について工夫しながら主題に迫っていきたい。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

これまでの研究の成果を踏まえながら、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を一層重視して指導過程を工夫することで、生きる力を更に育むことをねらいとした。

2 研究内容

- (1) 基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる指導の工夫
- (2) 指導計画・指導方法の工夫
- (3) 生活を工夫し創造する能力を育む指導(問題解決的な学習)の工夫

「社会でよりよく生きる力」とは

- ・単なる知識及び技術の蓄積ではなく、習得した知識及び技術を活用し、家庭や社会でよりよい生活を工夫・創造できる能力
- ・「課題を発見する力」、「課題解決のための思考力・判断力・表現力」
- ・基礎的・基本的な知識及び技術を活用し、社会の変化に主体的に対応できる実践的な態度

技術・家庭科部会 平成26年度研究計画（案）

I 研究主題

生活を工夫・創造し、社会でよりよく生きる力を育てる指導過程はどうあればよいか。

II 主題について

技術・家庭科の目標は、「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」である。したがって、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成を目指して、生徒が生活を自立して営めるようにするとともに、自分なりの工夫を生かして生活を営むことや、学習した内容を進んで生活の場で活用する能力や態度を育成することが重要である。

これらの学習指導要領における教科や分野の目標、改訂の趣旨を踏まえて平成23年度から研究主題を「生活を工夫・創造し、社会でよりよく生きる力を育てる指導過程はどうあればよいか」副題を23年度は「－基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる指導の工夫－」、24年度は「－指導計画・指導方法の工夫－」、そして25年度は「－生活を工夫し創造する能力を育てる指導（問題解決的な学習）の工夫－」として、生活を営む上で生じる課題に対して、自分なりに判断して課題を解決する能力、すなわち問題解決能力をより高めるための研究を進めてきた。特に（1）「学びの連続性」を生かした指導計画、（2）「気付き」「探る」を重視した教材教具の工夫、指導方法・指導過程の工夫、（3）「探る」を重視した言語活動の工夫、（4）「深める」「新たに気付く」を重視した評価の工夫（成果の確認）である。その結果、以下のような成果と課題が明らかになった。

〔成果〕

- ・基礎的・基本的な知識及び技術の明確化と指導計画への確実な位置付け、実感を伴った理解を深めるための実践的・体験的な学習活動の工夫によって、基礎的・基本的な知識及び技術の定着を図ることができた。
- ・生活に密着した教材・教具の工夫と開発を行ったことで、習得した知識・技術を生活の中でよりよく生かそうとする実践的な態度を育てることができた。
- ・題材に応じたゲストティーチャーの効果的な活用から、より身近な問題として捉え、考えを深めたり視野を広げたりする学習となり、生徒の学習意欲の向上や、知識及び技術の習得につながった。
- ・1時間の授業において、また、指導計画全体において、「学びの連続性」（「気付く」・「探る」・「深める」新たなことに「気付く」…）を意識した指導過程を設定したことで、生徒が自ら課題を発見し、主体的に問題解決的な学習に取り組もうとする意欲を高めることができた。

〔課題〕

- ・知識や技術がより実生活に生かされるような指導過程を工夫し、学習内容の順序性や関連性を更に考慮して、3学年間の学習を見通した指導計画を作成する必要がある。
- ・評価規準（目標を達成した生徒の姿）を明確にし、それに応じた評価場面と評価方法を工夫して、「社会でよりよく生きる力」の育成につながる評価を実践する必要がある。
- ・評価・判断する能力を育成するために、「根拠を述べる」、「考えを深める」、「他に伝える」に重点を置いた言語活動の充実を図っていかなければならない。

これらの成果と課題を基に本年度も主題を引き継ぎ、これまでの研究成果や方法を十分に生かしながら研究を進めていきたい。

Ⅲ 研究内容とその視点

1 基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる指導の工夫

- (1) 学習内容の精選と基礎的・基本的な知識及び技術の明確化
- (2) 3学年間の見通しをもたせるガイダンスの充実
- (3) 基礎的・基本的な知識及び技術の指導計画への確実な位置付け
- (4) 実感を伴った理解を深める実践的・体験的な学習活動の充実
- (5) 評価規準・評価方法の改善
- (6) 習得した知識と技術を有機的に関連付けて学べる題材の開発
- (7) 基礎的・基本的な知識及び技術が習得できるような、家庭との連携・協力を図った題材の設定

2 指導計画・指導方法の工夫

- (1) 3学年間の学習内容を見通した指導計画と評価計画の見直しと改善
- (2) 他教科等との関連を図った指導計画の作成
- (3) 生徒の実態に即し、基礎的・基本的な知識及び技術の確実な習得を図る教材・教具の工夫と開発
- (4) 工夫し創造する喜びや成就感を味わわせる教材・教具の工夫と開発
- (5) 生徒の生活に活用できる教材・教具の工夫
- (6) 学校の施設・設備等の状況の確認・整備
- (7) 地域の人的・物的環境を生かした題材の工夫

3 生活を工夫し創造する能力を育てる指導（問題解決的な学習）の工夫

- (1) 生徒の主体的な学習意欲を喚起し、自ら課題を発見し、設定できるような手立ての工夫
- (2) 生徒の特性や生活体験を踏まえて、一人一人の課題に応じた指導過程の工夫
- (3) 実践的・体験的な学習活動を通して習得した知識及び技術を活用し、問題解決的な学習を繰り返し、実際の生活に生かすことができる学習の場の設定
- (4) 実習等の結果を記録・整理し、考察する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表、概念等を使用して報告・説明したり、討論したりするなどの学習活動の充実
- (5) 計画、実践、評価、改善等の一連の指導過程の適切な組立て

Ⅳ 研究方法

- 1 各郡市部会ごとに研究体制を整備し、部長及び研究推進委員を中心とした共同研究を推進する。（各学校での実践を記録し、情報交換を積極的に行う）
- 2 生徒及び教師に対する質問紙調査を行い、学習内容に対する意識や関連する生活体験、教師の指導方法や指導形態などの実際についての変容を把握し、今後の指導方法の改善に活用する。
- 3 小学校、高等学校、高等専門学校、大学等、諸機関との連携のもとに、講演会、実技講習会、教材開発の情報交換等を密に行い、研修を深める。
- 4 本年度の成果を「研究のまとめ」として収録し、累積を図るとともに、次年度へ生かす資料とする。

